

日中文化交流……………	1
DIALOG サービスの 実施について……………	4

日 中 文 化 交 流

— 赴日大学院留学生予備教育を終了して —

梅垣 壽春



結業典礼 (8月27日 於 東北師範大学)

我々東工大教師団は、この夏の期間実施された長春における、表記の予備教育の任務を無事終了して、9月中旬過ぎ帰国した。ここに全学の皆さんに我々の中国における76日間に亘る日々のことを、掻い摘まんで、ご報告致します。

この予備教育は本年をもって、3年目を迎える。1年目は本学から栗野満教授他3名と他大学1名の教官が長春に派遣され、2年目は小口武彦教授他3名の本学の教官が派遣された。本年は梅垣壽春(数学担当)、橋本巍洲(物理学担当)、八嶋建明(化学担当)、渡辺治(計算機・数学担当)の4名の教官が前年同様に、7月、8月の2か月間長春で上記の予備教育に携わった。

これは冒頭に掲げた“日中両国間の文化交流”に関する行事の一環として始められたもので日中友好促進のためにも重要な意義をもっている。前2回に関することは東京工大クロニクルNo.151に栗野教授が、同No.163に小口教授がそれぞれ詳細な報告を掲載されている。この予備教育の開始された経緯、その目標とする所については前2回の報告で尽されてい

るのでそれらを参照して頂き度い。

以下、今回我々に係わりのある内容に的を搾って述べることにする。しかし当然ながら前回と共通の点も多々あるため前回の報告と内容の重複もあり得るのでその点お断りして置き度い。今回予備教育対象者は、中国各地の大学において学部の課程を修了し1983年の国家統一試験を経て、優秀な成績を取めた大学院留学生(研究生という)で、その総数は144名であり、彼等を日本の各地の大学の大学院に入学させることを目標に置いた予備教育がこの3月より開始された。それら144名の内55名(内女子5名)の理工学を目標とする学生を吉林省長春市にある東北師範大学内の赴日留学生予備学校へ、残りの89名の理・工・農・人・社系の学生を遼寧省大連市の大連外国語学院派遣留学生養生訓練部へと中国政府教教育部によって振り分けられた。これらのことは昨年と概ね同様である。前述したように我々東工大教師団は長春に派遣された。因みに大連には京都大学の教師団が派遣された。我々の大凡の目標とする所は日本語によって、数学・物理学・化学・計算機科

学の各専門の一般教育を行うことにある。

予備教育期間は本年3月1日から8月31日までの26週間とし、3月1日～6月30日を第一学期、7月1日～8月31日を第二学期（途中7月1日からの1週間は夏休み）とし、第一学期は主として基礎日本語の養成訓練（それに英語教育も加える）、第二学期は主として理工基礎専門の日本語による教育を行う。以上のことが中国教育部と日本の文部省間で取り決められた。具体的な教育計画及びクラス編成等については、現地到着後実際に予備教育に携わる我々派遣教官と予備学校管理者及び関連教官と協議して定められた。第一学期は東京外国語大学日本語学校の河原崎教授を団長とする4名の教師団と中国側日本語教官4名が教育に当られた。これらのスケジュールは一応昨年と同様であるが、昨年迄の経験を踏まえ、第一学期の日本語教育のより充実強化を図るため東京外国語大学教師団の内2名が残留し、我々と共に第二学期の日本語教育に当たった。実際の教育の過程については後述することとし、話しを日本出国の時点に遡ることとする。

我々4名の東工大教師団は7月3日に出国。北京にて中国入国手続きが行われた。北京における4日間は中国教育部の丁寧な応待を受け、盛大な歓迎の宴が催された上、各地の名所旧蹟を案内され、特に幼い頃より夢に描いた万里長城の頂上に立った感激は最高であった。7月6日北京より哈爾濱行の特急列車（火車）に乗り込み長春に向った。途中唐山（1976年大地震に見舞われた街）、山海関（万里長城最東端「天下第一関」の匾額あり）、錦州、瀋陽など、我々日本人に馴染み深い街々を通過、中国大陸東北部の山野を満喫し、地平線の落日を望見し乍ら、列車は一路北に向って直走り18時間の旅を経て7月7日早朝長春に到着した。駅頭には学長を初め、予備学校長、副校長、その他主な方々の出迎えを受け、先ず我々の宿舎となる東北師範大学専任招待所に案内され、直ちに先方の方々と我々との初顔合せを行った。必要な事務的なこと、授業に関する打合せはテキパキと処理することが出来、翌日は長春市内を見物させて貰い、夕べには盛大な歓迎の宴が催された。

7月9日より愈々授業開始である。先ず始業式が行われ、55名の研究生と相目見える。予想していた通り皆礼義正しいものである。授業はこれより約8週間に及ぶ。研究生55名の出身は前述の通りであるが、育った環境は様々な階層に分布される。概して教師など知識階級の子弟が多いようで、皆、非常に

真面目で一路日本への留学を目指している。

授業は数学・物理・化学・計算機科学に関する一般教育を中心とし、それに日本語の授業が加わり、更に英語・体育の授業なども行われた。数学は重点科目ということで助教の方が3名、他は1名ずつ付き毎日午前7:30～11:30、午後2:00～4:50（各50分授業、10分間休憩）、その間正午を挟んだ2時間半は昼食と休憩の時間である。教教官側は宿舎の招待所から校舎迄すべてマイクロバス（紅旗）か乗用車（上海）による送迎を受ける。研究生達は中国全土から選りすぐったもので、昔、中国に科挙の制度があり、その難関を突破したものに比すべき程の優秀な学生達である。皆爽やかなもので、毎朝のキャンパスの出会いから教室における応待、すべて彼等との接触が楽しい日々であり彼等を教えることの張りが日々に新たであった。始業式において各教官が挨拶し、各々授業の内容について説明したが、皆日本語を十分にキャッチすることができた。彼等自身の優秀さに加えて3月以来の日本語の教官の努力の賜である。授業における日本語による説明のスピードも2週目位から可成り速くしても十分について来た。4週目位から高水準なことも教え、応用的な内容も試みた。例えばエントロピー・通信・信号・DNAなどに於ける数学的手法など。皆よく理解して呉れたものである。他の教官も、それぞれ独自の内容を組み込むことによって皆能率よい授業ができ、予備学校側には大変喜んで頂いた。時折、授業の最中に唐詩を板書し日本流に読んで聞かせることによって日本語の練習をさせ、特に「詩」の含むエントロピー（情報量）などの話をした。これは効果大いに揚ったようである。

東北師範大学と吉林大学の双方の数学（計算機も含む）・物理・化学の各学部にも各々招かれ Colloquium Talk を行なった（因に、この両大学共中国の重点大



朝陽公園（長春）

学である)。共に皆喜ばれ、大いに歓迎された。全員が各専門分野において十分な学術交流が出来たわけである。将来専門分野としての交流を続行したいとの提案を受け、この面での収穫も大である。両大学の数学関係分野の図書館も案内されたが学術雑誌・図書は殆んど完備され日本の文献も豊富で中国の研究活動の水準の高さも伺い知ることが出来る。

予備学校側は我々を遇するに誠に丁重で、絶えず気を使い、健康面に細やかな配慮が示された。授業の日々が続いたが、時折近郊にマイクロバスで案内され、また吉林市や哈爾濱市なども見物させて貰った。郊外は見渡す限り大平原である。長春の近傍での最高峰は標高300m余の浄月潭にあり、その麓に美しい人造湖がある。また市内にも美しい二つの湖があり、その一つは南湖、他は朝陽湖という。前者は湖中に四つの亭を浮き橋で結び、後者は湖岸に岳陽楼に模した三樓の亭を配しその景観を盛り立てている。この街は別名を棚外の春城といい、杜の都ともいう。道路巾広く、手入れの行き届いた街路樹が青青と繁り省都としての貫禄十分である。

授業は8月24日に終了し、文部省関係者が見え、ここで試験を行い、皆よい成績を収めて研究生達の勉学の成果を立証した。同27日には森喜朗文部大臣が研究生の卒業式（これを「結業典礼」という）に出席するため夫人同伴で長春に来られた。随行の文部省審議官を初め同省のお歴々、日本の主な新聞・テレビ・報道機関から13名の記者団、また中国政府教育部の李局長を初め吉林省政府の高官、さらに中国報道記者団など多数が出席して盛大な結業典礼が催された。日中両国文教の最高首脳の方々が多数の報道記者団と共に長途の旅を至てこの典礼に出席されたことは日中両国政府が、いかにこの赴日大学院留学生の育成に重大な関心と熱意を持っておられるかを伺い知ることが出来る。

我々が長春において蒔いた種は間も無く日本に渡り芽を出し、育成され、数年後には一人前の研究者・技術者となって彼等自身の祖国中国に帰り、中国の大地にしっかりと根を張り、やがて大木に育って呉れることを十分な期待を持って見守り度い。僅か2か月の間であったが、我々が教えた研究生達は我々にとって掛けがえの無い弟子達である。他民族の高水準な学生達を教え大きな将来を期待し得ることは教師として最高の冥利である。この典礼においても上述の内容を折り込んだ挨拶を行い、研究生達を大いに激励した。森大臣とも種々と言葉を交わす機



白帝城近くの瞿塘峡。筆者達は重慶より大船に乗じて長江を下った。

会を得て、この点も得る所大であり、記者の人々とも大いに歓談した。

8月の後半は招宴の連続である。日によっては昼食会と夕食会が催された。一日吉林省書法（書道）協会の最高の地位にあり、詩人でもある黄家に我々一同が招かれ、黄氏を初め書法の大家達と歓談した。ここで書法の書き比べがあり、拙ない私の書も所望され、それこそ最上の筆と最上の墨・硯を所望し、意を決して大書すること2幅、酒宴の席にて再度筆を揮った。斯くして書を残して来たが、顧みれば心臓が強過ぎたとか、汗顔の至りである。一同に各大家の素晴らしい書を贈られ、思わぬ歓待を受けた。因みに、この黄先生は予備学校の物理の助教靳槐氏の伯父に当る。当日、新聞記者団（5名）も同席し翌日の新聞に“交流書法藝術暢叙中日友情「日本朋友到書法家黃渭家作客」の見出しで日本東京工業大学教授……”という風に我々の記事が一面で報道され、正に日中文化交流を書法の面に於ても行なう結果となった。

愈々研究生達ともお別れであり、謝恩会が催され、また8月29日には南湖賓館という高級ホテルで最後の送別の宴が催され8月31日早朝雨中の長春空港を飛び立った。花一杯咲き誇る専任招待所の門には所長・庶務係・炊事係等々我々の世話をした呉れた方々、日本の方々など、数十人が咲く花達と共に見送って下さった。また空港には郝水学長・周敬志副学長・賈修義副校長・徐楨殷先生・数学学部学長、さらに東北師大・予備学校関係者20余名に及ぶ方々に見送られて出発した。中国の人々が全身で心の底から我々を歓待して下さることは如何程感謝の言葉をもってしても表現し得ない。思えば、心温まる長春の日々であった。誠に城春（長春）にして緑深く、時に感じては花にも涙を濺ぎ、別れを恨みては鳥にも心を驚かす。さらに「揮手自茲去・蕭蕭班馬鳴」の

感概である。

長春における任務を終了し、予備学校の張紹書校長と劉啓発氏が我々に付き添って、中国の各地を案内して頂き中国大陆を満喫した。最後迄手厚い持て成しを受け9月16日中国の方々に見送られ乍ら再見を約して上海空港を飛び立った。

今回の訪中に当って、本学教務課を初めとして関係各方面、並びに文部省留学生課の方々に用意万端全てに亘ってお世話に相成った。このことも合わせて御礼申し上げ度い。

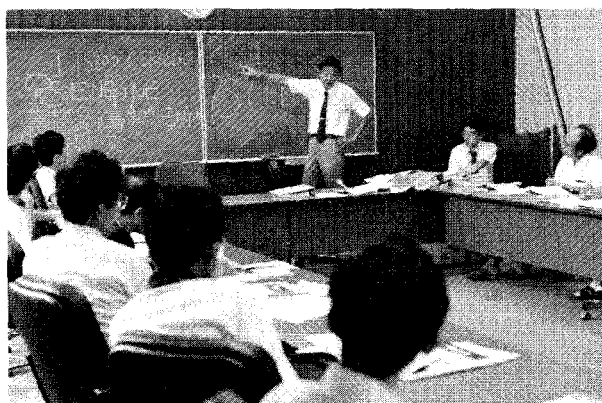
〔追記〕赴日留学生達144名の内10名は希望通り我が東工大に配属され、その内4名は我々が長春において教えた研究生達である。半年間の研修を終え来年4月全員が目標とする所の大学院に進学出来る

ことを、このことのみを心から願っている。留学生を引率して予備学校副校長夏修義先生が10月11日本学に見えた。その際、我々の経験の上に立った意見を開陳した。その席上同先生の説明によって次回の予備教育は第一、二、三学期とし、第一、二学期(11月～6月)で日本語・英語教育を集中的に行い、十分な言語上の能力を身に付けた上、「理工系一般教育は従来通り7月1日(第三学期として)から行うことを目標とする」という計画を示された。恐らく来年も本学から本年同様数名の方々が派遣されると思われるが、私の一文がご参考になれば幸いである。終りに日中の友好交流が益々盛となり国家間の親密さが更に更に深まることを心から願うものである。

(理学部情報科学科 教授)

DIALOG サービス実施について

去る10月3日(水)と5日(金)の両日にわたりそれぞれ附属図書館および長津田分館においてオンラインデータベース検索サービスDIALOG実施にともなうユーザ講習会が開かれ両会場合わせて72名の教官・大学院生が参加した。当日は本サービスの東工大への提供者である(株)紀伊國屋書店国際情報部のインストラクター荒井幹夫氏の説明のあと、図書館備付の公衆網接続オンライン端末2台を国際電話回線(当日は紀伊國屋の専用回線)を通じて米カリフォルニア州サンフランシスコ郊外の街パロアルトにあるダイアログインフォメーションサービス社のコンピュータシステムにつないで参加者の持ちよったテーマをもとにCA Search等いくつかの文献データベースの検索実習を行った。以下、その概要を紹介する。



DIALOG 説明会(図書館会議室)

CA Search 米化学会の一部門であるケミカルアブストラクツサービス社(オハイオ州コロンバス)で制作されている最大の化学文献データベースであり、1967年以後出版された約530万件を蓄積し、さらに毎年40万件以上を追加しつつある。DIALOGはCA Searchを含む約180種以上のデータベースを集めひとつのオンライン検索システムを通じて個々のユーザに直接情報サービスをおこなう国際的な商用オンラインシステムである。附属図書館では昭和55年度JOISシステム(日本科学技術情報センター「科学技術文献速報」を含むデータベース検索サービスを提供)導入して文献検索サービスの改善を図ってきたが今回はさらに国際的な情報サービスを教育・研究に提供し、また本学図書館資料の有効活用をめざすものである。

オンライン対話型の情報検索の特徴は500万件以上のファイルからでも10秒程度で即時に結果が得られることのほか、標題や抄録文中の単語をキイとしてかつその組合せによって検索できることにある。すなわちコンピュータ自動作成を主体として生成された索引ファイル(インバーテッドファイル)をもっているからである。たとえば「ビデオディスクおよび光ディスクの技術と情報サービス機関」についての文献記事はComputer & Control Abstracts(CCA, 冊子体)ではVideo recordingの見出しのもとに配列されているが、対応するオンラインデータベースINSPECでは少なくとも4箇のキーワードの組合せvideodisc and optical and disc and technology and information(ここにandは論理積を表わす)を

キイボードから入力することによって得られる。

一方、DIALOGの使用料金は次のようにきまる。

$$C(\text{円}) = (t \times CT + n \times CP) \times R \times 1.08 + t \times 80$$

ここに、 t ……オンライン接続時間(分)

n ……表示した文献記事の個数(件)

CT ……接続料/分

CP ……タイプ料/件

R ……当月¥/\$ 為替レート(円)

たとえばCA Searchを6分間検索し、その結果(内容)を10件表示した場合

$$C = (6 \times 1.13 + 10 \times 0.12) \times 235 \times 1.08 + 6 \times 80 \\ = 2,030 + 480 = 2,510 \text{円}$$

ただし、1ドル=235円とした。また係数1.08は国内代理店の大学契約の場合の手数料率を示し、480円は1分間当の通信回線料である。事前に検索戦略を練っておきキイワード入力と結果の判定をすばやく行うことが大切である。因みにJOISで同一の検索を行った場合は、 $6 \times 315 + 10 \times 33 = 2,220$ 円となる。CA Searchはオンラインシステム提供機関によって編集格納されるからサービス上の違いは料金だけでは決らない。また、大量に結果を表示する場合はオフラインプリント(速達もしくは航空便)も可能である。

こうしたオンライン検索サービスを通じて定期的に最新文献情報を入手するにはその検索式を登録しておき、データベースが更新される都度結果を受け取ることができる。(SDI: Selective Dissemination of Information)

ところでDIALOG等商用データベース検索サービスを通じて得られるのは文献の書誌事項(標題、掲載誌名、巻、号、頁等)あるいは抄録のみであって実際にその文献を入手するには図書館を通じて所在を知る必要がある。本学図書館が東京大学文献情報センターとの間でわが国初のコンピュータによる文献情報ネットワークに接続し、昭和60年1月から目録作成業務の試行をはじめるのは、究極的には我が国大学図書館ネットワークを基本として文献の検索から提供までのサービスを一貫して行なうことを目的とする「学術情報システム」の実現に向けての第一歩をしるすことになる。

図書館の目録所在情報のオンライン検索サービスには当館が去る10月17日から開始した「利用者用オンライン所蔵目録」TOPICS、東京大学大型計算機センターの学術雑誌総合目録オンライン検索システムTOOL-ULPが利用可能であり、さらに昭和60年

度以降前述の文献情報センターに蓄積される図書・雑誌の総合目録データベースとそのオンライン検索システムが予定されている。

図書館の行いう情報検索サービス等についてご意見・ご希望を学術情報掛(内線3223)を通じてお寄せいただきたい。またTOOL-ULPを利用してみたい方は、学術情報掛もしくは分館事務掛(内線2141)へ申し込まれたい。(附属図書館)

総合情報処理センター計算機 サービス時間の変更

1. サービス時間の延長

(1) 朝早くから利用出来ます。

今迄より15分早く利用出来ます。

もっと早く(8時20分頃から)利用出来る時もあります。LOGONしてみてください。

(2) センター内機器を閉館間際まで利用出来ます。

(3) 保守作業がない場合は水、土曜日でも時間延長します。

2. 変更後のサービス時間

曜 日	開始時間	終了時間	
		センター内機器 * 1	センター外機器 * 2
月、火、金	8:45	16:55	20:00~22:00
水	8:45	16:55	16:55 * 3
木	9:15	16:55	20:00~22:00
土	8:45	12:25	12:25 * 3

* 1) LOGONが出来るのは当該時刻の5分前迄です。

* 2) 20時(10月~2月)迄は必ず利用出来ます。

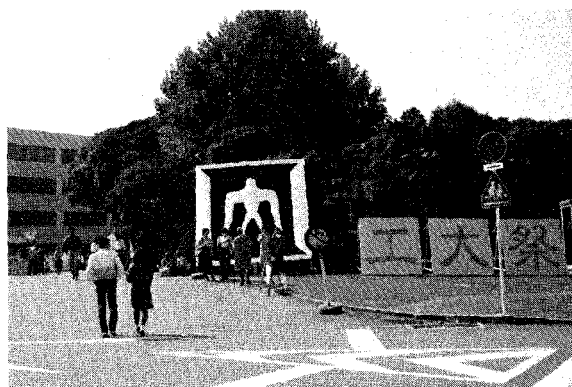
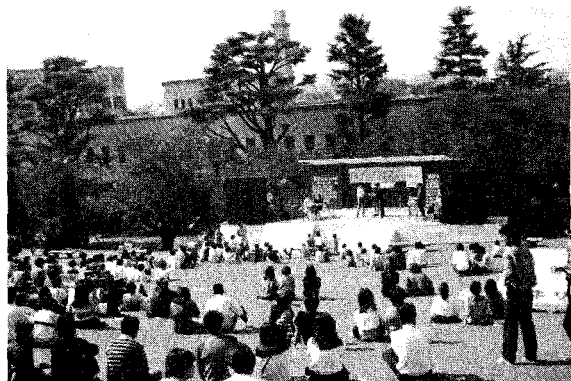
それ以降は利用者がいないとサービスを打ち切ります。

* 3) 水曜日の16時55分以降はソフトウェアの保守(OS、コンパイラの更新等)、土曜日の12時25分以降はハードウェアの保守(機器の点検・整備)等を行っていますが、これらの作業がない場合は22時迄延長します。

延長運転を行う場合は事前にセンターニュース等でお知らせします。

'84工大祭終る

東工大大岡山キャンパスでは、他大学の先頭をきって去る10月20日(土)、21日(日)の両日に工大祭が行なわれました。20日は時より小雨のぱらつくあいにくの空模様でしたが、模擬店街などには人が入っていたようです。翌21日は晴天に恵まれ、かなり盛り上がり入場者数も増え、延べで2万人もの人が入りました。年々活気の出ている工大祭も、今年は参加団体数も100を上まわり、工大祭への参加の関心が高まってきているようです。しかし、工大生全員による工大祭になるにはまだ遠いようです。特に参加団体とは逆に実行委員になろうとする人数が減っていることは残念なことです。工大祭はまだまだ生まれたばかりの赤ちゃんです。これからの工大祭の育て方いかんで、大きく立派に育て上げていくこともできるのです。今年も機械工学科をはじめ、学科による大変おもしろい企画が行なわれました。こうした工大の特徴を生かした企画が増えてほしいものです。



パワーリフティングで優勝

去る10月20、21日に東京大学トレーニング体育館において、第38回関東学生パワーリフティング大会が行われました。パワーリフティングは、スクワット、ベンチプレス、デッドリフトの3種目からなり、体重別に6階級に別れ重量挙げを競う競技です。

さて、この大会は、関東22大学が参加して行われましたが、わが東京工大ウェイトトレーニング部は団体戦で6位に入賞し、また個人でも、56kg級で、福島亮君(応用物理学科3年)が優勝、60kg級で猪股克弘君(高分子工学科3年)が4位に入賞するな

どの好成績を修めました。パワーリフティングはウェイトリフティングほど有名ではありませんが、だれにでもできることや、安全性も高いことなどが人気を呼び、近年急速に発展しています。われわれの練習は、トレーニングセンターで行っていますので、ぜひ一度見学に来て下さい。(主将 佐藤 健)

図書館年末年始の休館

期間 12月27日(木)～1月5日(土)

※ 12月24日(月)～12月26日(水)の間は17時閉館となります。

(附属図書館)

第6回すずかけ祭を終えて

昭和54年11月24日(土)、25日(日)の両日に開催された本学長津田キャンパス開設祝賀行事に始まった「すずかけまつり」は、以来、毎年10月最後の土曜日と、翌日曜日の2日間、地元の方々にも入っていただいで続けられ、早くも第6回を数えるに至った。

今年は、10月27、28日の両日、おだやかな好天気に恵まれて昨年を上回る人出であり、学生の模擬店も早や早やと売切れて店じまいするほどであった。

例年のように、数十の研究室、MHD発電実験装置などの公開と各種展示、光ファイバーによる研究指導室の実演、映画会、職員や地元の方々の文化展、学生の写真展、地元芸能などのほか本物のモデルによる水着ショーまで行われた。

スポーツ関係は、ソフトボール、硬式テニス、卓球、バレーボールおよびゲートボールの5種目、合同棟が建築中の関係でグラウンドが手狭なため、ソフトボールはチーム数を一部制限したが、9月上旬から始められて順調に進行し、すずかけ祭前日までにすべて終了してそれぞれ入賞チームも決定し、懇親パーティの前に表彰状の授与、そしてパーティの中で優勝杯とレプリカの授与が行われた。

懇親パーティは、例によって大学院2、3、4号館に囲まれた中庭に薪を積み上げ、赤々と燃えさかるファイヤを中央にして約800人も参加し、まことに盛会であった。

学長ご夫妻のほか、理学部長、福与元研究科長、蔵前工業会理事の浅石先輩、大岡山の事務の方々なども多数出席された。地元の方々の長津田祭囃子が一きわ迫力を見せ、また4人の美女によるくじ引きも行われて会場を盛り上げた。



初日午後の地元芸能は舞踊、詩吟、剣舞など、また文化展では書道、絵画、写真、盆栽、地元の方々の押葉など、見事な力作が多かった。

映画は、カナダ大使館のご好意によるアニメフィルムなど10本ほどが2日目の午前と午後に各2時間ほど上映され、とくに午後は満員の盛況であった。

2日間の行事を無事に終わってしみじみと感じることは、実行委員の努力もさることながら、等事務部の方々のご苦労ご尽力には頭の下がる思いがする。

大岡山の工大祭を含めて一般の大学祭とか文化祭とよばれるほとんどの行事が、学生の盛り上がる力で運営されるのに対し、すずかけ祭はいうなれば大学主導型であり、勢い事務の方々のご協力なしには準備も思うように進まないことを痛感した。しかし、多忙な大学院生活の中ながら、熱心な学生も多く、研究設備の公開展示の説明とか、とくにパーティ会場の設営や後片付けなど、担当の教官、助手とともに大変手際よくやって下さった。

ご協力をいただいた多くの方々に心からお礼を申し上げたい。また併せて、年々のすずかけ祭をさらに有意義で、しかも楽しいものにしていきたいものと願うものである。

(第6回すずかけ祭実行委員会委員長 田中良平)

昭和59年度職員文化展終る

本年度の職員文化展は、10月24日(木)、25日(金)に大岡山地区で、27日(土)、28日(日)に長津田地区で開催され、書道展、絵画展、写真展、盆栽展及び華道展に一般公募集品及びサークル部員による多数の作品が出品され、多数の観賞者で賑わい盛況のうちに終了した。

なお、今回の文化展開催に当っては、関係職員サークルの皆さんのご協力によって無事終了することができましたことを深く感謝します。(庶務部人事課)

総合情報処理センター年末年始の閉館

閉館期間 12月29日(土)～1月4日(金)

※ 12月28日(金)の計算機サービスは通常通り22時までに行います。

(総合情報処理センター)

昭和60年度工学部附属工業高等学校 生徒募集要項

1. 募集人員（全日制）

機 械 科	40名	工業化学科	40名
電 気 科	40名	建 築 科	40名
電 子 科	40名		

2. 出願資格

中学校を卒業した者並びに昭和60年3月卒業見込の者

3. 願書受付期間

昭和60年1月20日(月)から1月24日(木)まで
(郵送の場合は、締切日までに必着のこと)

4. 入学者選抜

(ア) 方 法 出身中学校長からの調査書及び健康診断書と本校において行う学力検査による。

(イ) 試験科目 国語 数学 英語

(ウ) 期 日 昭和60年2月15日(金)

詳細については、同校教務掛(内線207)にお問い合わせください。

昭和60年度工学部附属工業高等学校 専攻科（夜間）生徒募集要項

1. 募集人員（男・女）

機 械 科	25名	建 築 科	25名
電 気 科	25名	工業化学科	25名

2. 出願資格

高等学校を卒業した者及び昭和60年3月卒業見込の者又は、法令の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた者。

3. 受付日時・場所

昭和60年3月11日(月)から3月13日(水)まで
午後5時30分～7時30分 本館1階事務室

4. 入学者選抜

(ア) 方 法 出願書類及び面接試験による
(イ) 期 日 昭和60年3月18日(月)又は3月19日(火)のうちいずれか一日で、このことについては、出願受付の際に指定する。

詳細については、同校教務掛(内線207)にお問い合わせください。

◇文化功労者

昭和59年度の文化功労者に名誉教授内田俊一氏が選ばれました。

◇叙 勲

昭和59年度の秋の叙勲を受賞された本学関係者は次のとおりです。

清浦 雷作 名誉教授 勲二等瑞宝章

◆謹 告



本学名誉教授佐々木重雄氏は、去る11月21日肺炎のため逝去されました。享年85才。

ここに深く哀悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

同氏は、大正11年に東京帝国大学工学部造兵学科を卒業、同年東大講師、大正12年同助教授、昭和7年本学助教授、14年同教授、同年精密機械研究所長、32年附属図書館長、34年停年退職、同年名誉教授となられ現在に至っていました。

専門は精密機械工学。

東京工大クロニクル No.174

昭和59年12月15日

東京工業大学広報委員会 発行◎

東京都目黒区大岡山2-12-1 〒152

電話 03-726-1111 内線2032